



IGMP コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [ip igmp last-member-query-count](#) (2 ページ)
- [ip igmp last-member-query-interval](#) (3 ページ)
- [ip igmp query-interval](#) (4 ページ)
- [ip igmp query-max-response-time](#) (5 ページ)
- [ip igmp robustness](#) (6 ページ)
- [ip igmp version](#) (7 ページ)
- [show ip igmp interface](#) (8 ページ)

ip igmp last-member-query-count

Internet Group Management Protocol (IGMP) の最後のメンバーのクエリー カウンタを設定するには、**ip igmp last-member-query-count** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーション モードで使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
ip igmp last-member-query-count count
```

```
no ip igmp last-member-query-count
```

パラメータ

count : 脱退を示すメッセージの受信時にグループまたはグループ送信元固有のクエリーを送信した回数。(範囲 : 1 ~ 7)

デフォルト設定

IGMP 堅牢性変数の値。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

ip igmp robustness コマンドを使用して、IGMP の最後のメンバーのクエリー カウンタを変更します。

例

次の例では、IGMP の最後のメンバーのクエリー カウンタの値を 3 に変更します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 1  
switchxxxxxx(config-if)# ip igmp last-member-query-count 3  
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

ip igmp last-member-query-interval

Internet Group Management Protocol (IGMP) の最後のメンバーのクエリー間隔を設定するには、**ip igmp last-member-query-interval** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーションモードで使用します。デフォルトの IGMP クエリー間隔に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ip igmp last-member-query-interval *milliseconds*

no ip igmp last-member-query-interval

パラメータ

- *milliseconds* : インターフェイスで IGMP グループ固有のホスト クエリー メッセージが送信されたミリ秒単位の間隔。(範囲: 100 ~ 25500)。

デフォルト設定

IGMP の最後のメンバーのデフォルトのクエリー間隔は 1000 ミリ秒です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーションモード

使用上のガイドライン

ip igmp last-member-query-interval コマンドを使用して、インターフェイスで IGMP の最後のメンバーのクエリー間隔を設定します。

例

次に、IGMP の最後のメンバーのクエリー間隔を 1500 ミリ秒に増加する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 100
switchxxxxxx(config-if)# ip igmp last-member-query-interval 1500
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

ip igmp query-interval

IGMP クエリアが Internet Group Management Protocol (IGMP) のホストクエリーメッセージをインターフェイスから送信する頻度を設定するには、**ip igmp query-interval** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーション モードで使用します。デフォルトの IGMP クエリー間隔に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
ip igmp query-interval seconds
```

```
no ip igmp query-interval
```

パラメータ

- **seconds** : スイッチがインターフェイスから IGMP クエリーメッセージを送信する頻度 (秒単位)。範囲は 30 ~ 18000 です。

デフォルト設定

デフォルトの IGMP クエリー間隔は 125 秒です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

ip igmp query-interval コマンドを使用して、IGMP クエリアがインターフェイスから IGMP ホストクエリーメッセージを送信する頻度を設定します。ルータの接続されたネットワーク上にメンバーがいるマルチキャストグループを検出するために、IGMP クエリアはクエリーホストメッセージを送信します。

クエリー間隔は、クエリーの最大応答時間よりも長い必要があります。

例

次に、IGMP クエリアが IGMP ホストクエリーメッセージを送信する頻度を 180 秒に増加する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 100  
switchxxxxxx(config-if)# ip igmp query-interval 180  
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

ip igmp query-max-response-time

Internet Group Management Protocol (IGMP) クエリーにアダプタイズされる最大応答時間を設定するには、**ip igmp query-max-response-time** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーションモードで使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ip igmp query-max-response-time *seconds*

no ip igmp query-max-response-time

パラメータ

- *seconds* : IGMP クエリーでアダプタイズされる最大応答時間 (秒単位)。(範囲 : 5 ~ 20)

デフォルト設定

10 秒。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーションモード

使用上のガイドライン

このコマンドは、応答側が IGMP クエリーメッセージに回答できる期間を制御します。この期間を過ぎると、ルータはグループを削除します。

このコマンドは、ルータがグループを削除する前に、どれくらいの時間でホストが IGMP クエリーメッセージに回答する必要があるかを制御します。10 秒未満の値を設定すると、ルータはグループをすばやくプルーニングすることができます。

クエリーの最大応答時間はクエリー間隔よりも短い必要があります。

注。ホストが十分な速さで応答しない場合、誤ってプルーニングされる可能性があります。したがって、ホストは10秒 (または設定した値) よりも早く、応答を認識する必要があります。

例

次に、最大応答時間を 8 秒に設定する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 100
switchxxxxxx(config-if)# ip igmp query-max-response-time 8
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

ip igmp robustness

Internet Group Management Protocol (IGMP) 堅牢性変数を設定するには、**ip igmp robustness** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーション モードで使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
ip igmp robustness count
```

```
no ip igmp robustness
```

パラメータ

- **count** : リンク上で予期されるパケット損失の数。パラメータの範囲。(範囲 : 1 ~ 7)。

デフォルト設定

デフォルト値は 2 です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

ip igmp robustness コマンドを使用して、IGMP 堅牢性変数を変更します。

例

次の例では、IGMP の堅牢性変数の値を 3 に変更します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 1  
switchxxxxxx(config-if)# ip igmp robustness 3  
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

ip igmp version

ルータが使用する Internet Group Management Protocol (IGMP) のバージョンを設定するには、**ip igmp version** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーション モードで使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
ip igmp version {1 | 2 | 3}
```

```
no ip igmp version
```

パラメータ

- **1** : IGMP バージョン 1。
- **2** : IGMP バージョン 2。
- **3** : IGMP バージョン 3。

デフォルト設定

3

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

コマンドを使用して、IGMP のデフォルトのバージョンを変更します>

例

次の例では、IGMP バージョン 2 を使用するようにルータを設定します。

```
switchxxxxxx(config)# interface vlan 100  
switchxxxxxx(config-if)# ip igmp version 2  
switchxxxxxx(config-if)# exit
```

show ip igmp interface

インターフェイスのマルチキャスト関連情報を表示するには、**show ip igmp interface** コマンドを特権 EXEC モードで使用します。

構文

```
show ip igmp interface [interface-id]
```

パラメータ

- *interface-id* : (任意) インターフェイス識別子。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

オプションの *interface-id* 引数を省略した場合、**show ip igmp interface** コマンドはすべてのインターフェイスの情報を表示します。

例

次に、イーサネットインターフェイス 2/1/1 に対する **show ip igmp interface** コマンドの出力例を示します。

```
switchxxxxxx# show ip igmp interface vlan 100
VLAN 100 is up
Administrative IGMP Querier IP address is 1.1.1.1
Operational IGMP Querier IP address is 1.1.1.1
Current IGMP version is 3
Administrative IGMP robustness variable is 2 seconds
Operational IGMP robustness variable is 2 seconds
Administrative IGMP query interval is 125 seconds
Operational IGMP query interval is 125 seconds
Administrative IGMP max query response time is 10 seconds
Operational IGMP max query response time is 10 seconds
Administrative Last member query response interval is 1000 milliseconds
Operational Last member query response interval is 1000 milliseconds
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。